



彩—iroha

本町一・二丁目とともに桐生の歴史エリアを構成する横山町。町の西境は寺社が連なる山手通りに接し、歴史と文化が交錯する独自の風情を携えている。そんな横山町の路地裏に2020年7月にオープンしたのが、カフェ「彩—iroha（いろは）」。オープン当初はかき氷専門店として色鮮やかな涼を提供し、11月から約5か月間はスープ専門店として人々を温めた。現在はいちごのスイーツを提供中で、オープンから間もなく1年となる今、クオリティの高いメニューと多彩な仕掛けで若い世代を中心に支持を得ている。

irohaを運営するのは群馬大学と共愛学園前橋国際大学の学生団体「Yield（イールド）」（伊藤裕喜代表）。現役の学生13人で構成され、『地域と学生の架け橋へ』をミッションに2020年3月に結成された。“yield”は「産出・生む」などを意味する英単語。新しい価値の創造に加え、“Yokomachi（横町＝横山町）”“Innovating（革新）”“Exciting（刺激的）”“Local（地元）”“Doer（実行者）”と、頭文字にもミッションへの想いを添える。

店舗は築100年の染色工場をリノベーションして活用。長年空き家として放置されていたが、約3ヶ月かけてメンバー自らが改修を行った。100㎡近い広々とした店内にはカウンターやテーブル席など約30席が配置される。壁はメンバーが独自に調色した濃紺色でペイントされ、柱や梁、開放的な天井など工場時代の名残とも調和し廃工場に新たな価値を与えている。最近では大手ハウスメーカーのCMに起用され、その良質な雰囲気幅広く発信された。

伊藤代表は「夢に向かいチャレンジする姿勢を示したい」と、irohaを通じて地域を感化しまちの盛り上げに繋げる考えだ。自主的な取り組みでメンバーの熱量も高く、若者らしい感性に従い意欲的に地域と接点を持ったこの1年。学生が地域に掛けた架け橋は、桐生の思い出を彩るニューブレイスとして歴史エリアに新しい風を吹き込んでいる。



染色工場をリノベーション 学生団体がつくる路地裏カフェ

【彩—iroha】

- 住所／桐生市横山町1-4
- 営業時間／火曜日～金曜日…午後3時～午後6時 土曜日・日曜日…午前11時～午後6時
- 定休日／月曜日



@iroha_kiryu